

かごしま連携中枢都市圏ビジョン（素案）

【概要版】

かごしま連携中枢都市圏ビジョンについて

我が国は本格的な人口減少・少子高齢社会の到来を迎えており、さらに、大都市圏への人口の集中に伴い、地方では人々が快適で安心して暮らしていくための基盤が失われるとともに地方公共団体が行政サービスを持続的に提供できなくなってしまうことが懸念されています。

このような中、人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化し経済を持続可能なものとし、地域住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるようにするために、地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することが必要と考えられており、この考えに基づき、平成26年度より国において「連携中枢都市圏構想」が進められているところです。

この国が提唱する「連携中枢都市圏構想」や地域の社会経済の現状に基づき、鹿児島市、日置市、いちき串木野市、始良市の4市は、鹿児島市を圏域の中心市として地域の一体的かつ持続的な発展を図るため、「かごしま連携中枢都市圏」の形成に取り組むこととしました。

この「かごしま連携中枢都市圏ビジョン」は、今後、圏域全体の持続的な経済成長を見据え、4市の多様な資源、産業、人材の活用や、人口定住のために必要な高次の都市機能の集積に向けた環境整備、また住民の生活関連機能サービスの維持・向上を目指す有機的な連携等について方向性を示し、今後の具体的な取組を推進するための広域計画として策定するものです。

かごしま連携中枢都市圏の概要

■ 名称

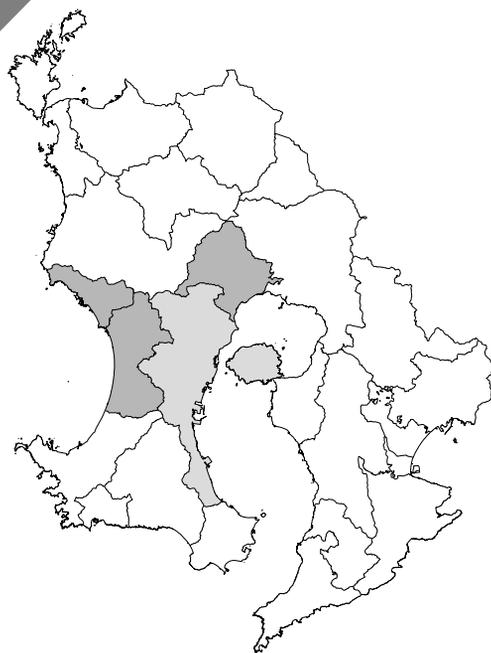
かごしま連携中枢都市圏

■ 圏域を構成する市

鹿児島市 日置市 いちき串木野市 始良市

■ 取組の期間

平成29年度から平成33年度までの5年間



鹿児島市



桜島や錦江湾に代表される豊かな自然、個性あふれる歴史、文化など素晴らしい特性を有し、60万市民の生活を支えるとともに、教育・文化、医療・福祉、ビジネス等の高次都市機能が集積する南九州の中核都市であり、第五次鹿児島市総合計画の都市像である「人・まち・みどり みんなで創る“豊かさ”実感都市・かごしま」の実現に向けた取組を進めています。

平成27年7月に、旧集成館などの本市の構成遺産を含む「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録され、平成28年1月には人口60万規模の中核都市としては国内初となる、セーフコミュニティ国際認証を受けるなど、世界基準の取組を推進しています。

日置市



鹿児島市に隣接し、地理的に優位な位置にあります。また、国道・高速道路、JRなどの交通網が整備されており、利便性の高いまちで、妙円寺詣りや薩摩焼、温泉、吹上浜など多くの観光資源にも恵まれています。

「住んでよし 訪ねてよし ふれあいあふれるまち ひおき」を将来都市像に掲げ、市民が安心・安全に生活でき、また、歴史的財産や自然資源、観光資源等を生かした交流・定住人口の増加を図り、あわせて、人の優しさや地域の温もりを感じながら、子どもから高齢者までだれもが笑顔で希望にあふれ、ともに助け合いの心を持って暮らせるまちづくりを推進しています。

いちき串木野市



日本三大砂丘のひとつである吹上浜の北端に位置し、温暖な気候や地理的特性に恵まれた環境のなかで、焼酎やつけあげなどの地元産品、まぐろラーメンで知名度が向上した水産物などの特色ある食のまちづくりを進めています。また、徐福伝説や、幕末・明治期に近代日本の礎を築いた薩摩藩英国留学生渡欧の地として歴史や文化を積み重ねてきました。

本市が持つ歴史的背景を重視するとともに、地域の活性化と福祉の向上を目指したまちづくりを展開するために、将来都市像である「ひとが輝き文化の薫る 世界に拓かれたまち」に向けた取組を進めています。

始良市



県本土のほぼ中央部に位置し、鹿児島市をはじめ、県内主要都市に隣接するという地理的条件や交通の利便性に優れており、海・山・川といった美しく豊かな自然に加え、長い歴史に育まれてきた有形・無形の文化財が多く残っています。また、各分野における人材も豊富で、地域の特性を踏まえたさまざまな施策を積極的に展開することで、更なる発展の可能性を秘めたまちです。

始良市総合計画に「県央の良さを活かした、県内一くらしやすいまちづくり」を基本理念に掲げ、子育て環境の推進と地域の活性化、安全・安心で活気のある生活環境づくりを推進し、都市的な機能と田園が融合したまちとして、多様性豊かな魅力あるまちづくりを進めています。

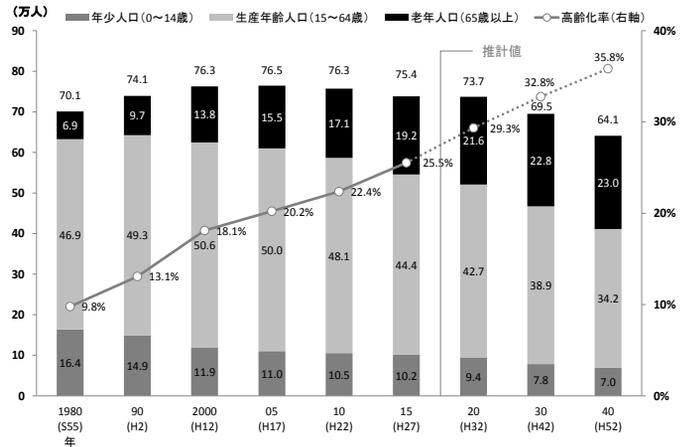
人口の状況

■ 人口構造の推移

圏域の総人口は1980（昭和55）年の70.1万人から2005（平成17）年の76.5万人まで増加を続けましたが、その後減少に転じ、2015（平成27）年は75.4万人となっています。今後も人口減少は継続が予想され、2040（平成52）年には約64.1万人となる見通しです。

なお、年少人口及び生産年齢人口の減少が続く一方で、老年人口の増加は続き、高齢化率は2040（平成52）年時点で35.8%に達する見込みです。

図1 圏域の人口構造の推移



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」

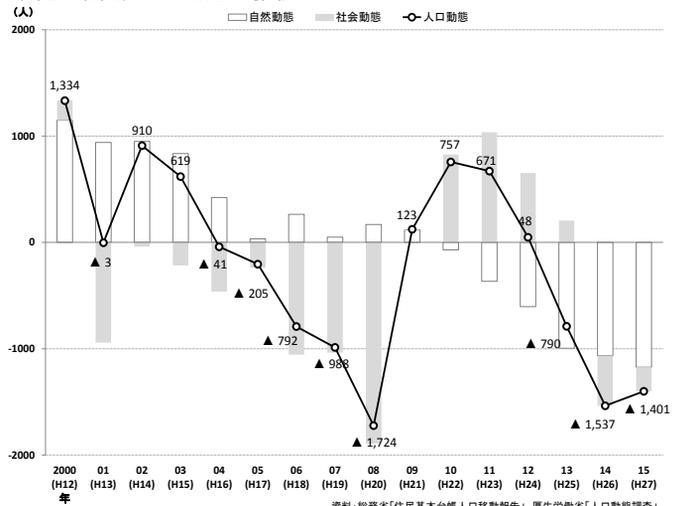
■ 人口動態の推移

自然動態は出生が死亡を上回る自然増から、少子化・高齢化の進展を背景に、2010（平成22）年以降、自然減（出生<死亡）に転じ、減少幅は年々拡大しています。

社会動態は転出が転入を上回る社会減少が続いていましたが、2009（平成21）～2013（平成25）年には転入が転出を上回る社会増と好転していましたが、2014（平成26）年以降は社会減となっています。

今後も自然減の傾向が継続するものと考えられるため、社会増に向けた取組が重要となってきます。

図2 圏域の人口動態の推移

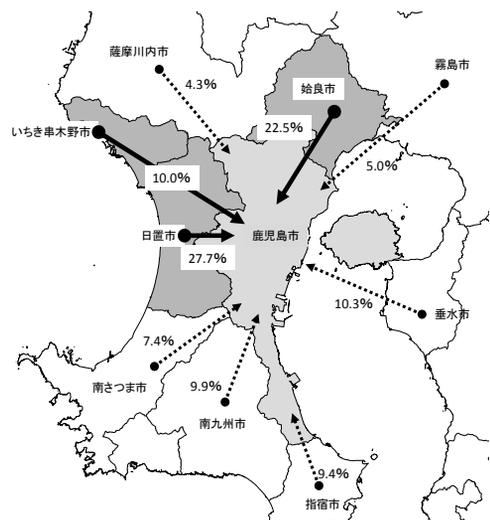


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」、厚生労働省「人口動態調査」

■ 通勤・通学の状況

本圏域を構成する市から鹿児島市への通勤通学割合をみると、日置市（27.7%）、いちき串木野市（10.0%）、始良市（22.5%）となっており、これら3市と鹿児島市は経済的に緊密なつながりのある圏域を形成しています。

図3 鹿児島市への通勤・通学状況



かごしま連携中枢都市圏の現状と課題

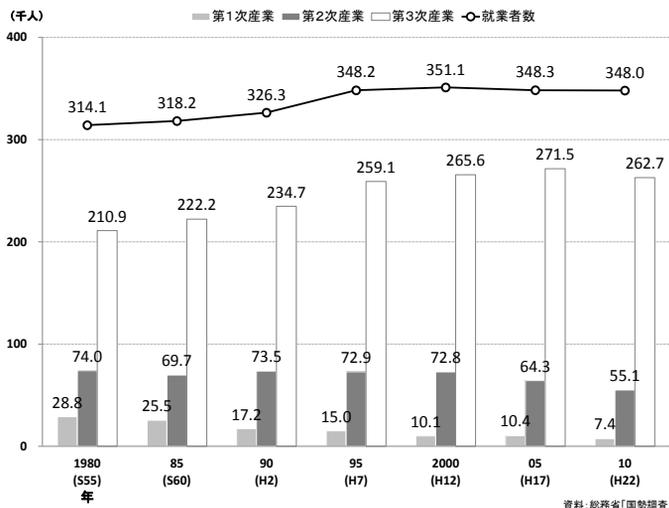
産業の状況

■ 就業の状況

本圏域の総就業者数は、2000（平成12）年の35.1万人をピークに減少しており、2010（平成22）年は34.8万人となっています。

産業3分類では、第1次産業は長期的に減少傾向が続いており、第2次産業でもおおむね減少しています。就業者数の75%を占める第3次産業も2005（平成17）年までは増加が続いていましたが、2010（平成22）年には減少に転じています。

図4 圏域の産業3分類別就業者数の推移



■ 生産の状況

本圏域の2013（平成25）年度の総生産は約2.3兆円と県内総生産の44.2%を占めており、本圏域は県内の経済活動の重要な位置を占める圏域となっています。

業種別では、「サービス業」「卸売・小売業」といった第3次産業の割合が高く、特化係数でも概ね第3次産業の特化係数（*）は1を超えています。また、「製造業」「建設業」といった第2次産業の割合も一定程度あり、多くの就業者が働く産業であることから、本圏域の特色ある産業分野となっています。第1次産業は、本圏域のみでは特化係数は低いものの、鹿児島県全体が農林水産業の我が国の重要な生産拠点の一つとなっていることから、その重要性は高いと考えられます。

図5 圏域の業種別生産額の構成

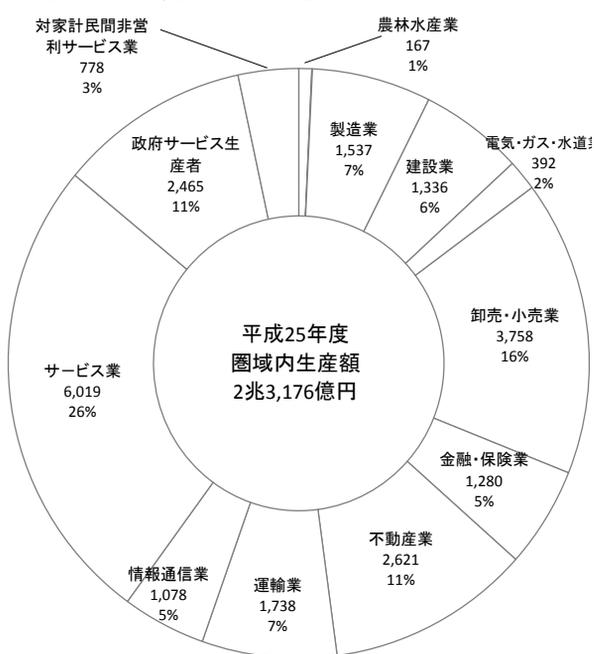
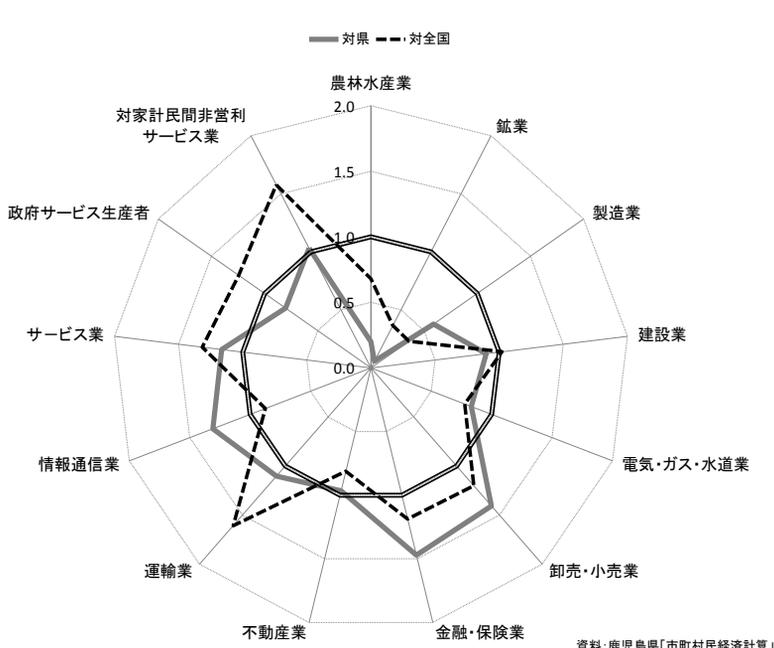


図6 圏域の業種別生産額の特化係数



* 産業の業種の構成などにおいて、その構成比を全国や県等の構成比と比較した係数で、産業の特徴などを分析する際に利用します。図6において特化係数が1よりも大きい産業は、その産業のウエイトが全国や鹿児島県の水準を上回っていることを意味します。

ひと・まち・くらし 魅力あふれる かごしま都市圏

全国的に人口減少が進む中、今後は本圏域でも人口が減少していくことが予想されます。

これから「ひと」が輝き、「くらし」が充実することで、「まち」に活力がうまれれば、このかごしま都市圏は、今以上に魅力あふれる地域となります。

本圏域には、豊かな自然と誇り高い歴史、そして、それらに支えられている産業・都市の魅力があります。これら先人から伝えられてきた多くの資源を活用して、圏域を活性化していくことが必要です。

圏域の目標人口 2040（平成52）年 70.8万人

本圏域の人口は、2015（平成27）年国勢調査時点で75.4万人ですが、将来人口は国立社会保障人口問題研究所によると、2030（平成42）年で69.5万人、2040（平成52）年で64.1万人に減少すると推計されています。

これまでの人口動態を前提とすると、今後人口減少が加速的に進むこととなりますが、連携中枢都市圏の取組を含め、各市が地方創生関連の取組を進めることにより、2030（平成42）年で73.3万人、2040（平成52）年で70.8万人という水準の人口規模を維持することを目指し、圏域が一体となって取組を進めていきます。

基本方針

将来像の実現を目指すにあたって、本圏域では、圏域全体の経済成長と、都市機能の集積・強化、生活機能サービスの向上を図り、人口減少社会のなかでも活力ある経済・社会を実現するため、以下の3つの方向性に基づき、産学官民が連携した取組や施策展開を図っていくこととします。

圏域全体の経済成長のけん引

少子高齢化を伴い進展する人口減少社会においては、圏域内住民の消費が低下することにより圏域内市場は縮小することが見込まれます。また、就業者数の減少も続くことが予想されることから、生産面においても人出不足が深刻になることも懸念されます。これらは、圏域内経済の停滞を招くことから、さらに雇用機会が減少し、都市部への若者の流出が加速するといった悪循環を発生させる恐れがあります。

このような悪循環を断ち切るべく、本圏域において強みとなっている、豊かな観光資源、食関連産業の集積、充実した交通網等を十分に活用し、圏域外からヒト・モノ・カネを引き寄せることで、経済基盤の強化を図り、圏域全体の経済成長を目指していきます。

高次の都市機能の集積・強化

九州新幹線の開業、南九州西回り自動車道の延伸等による高速交通網の整備が進み、南九州における交通結節点としての機能は向上しており、さらに鹿児島中央駅周辺での開発が進んだことから、鹿児島市を中心とした都市機能の強化が進んでいます。また、医療・教育等の様々な分野でも鹿児島市を中心に高次の都市機能が集積しています。

これら高次の都市機能の集積を維持・強化していくことは、圏域全体での経済・生活の質の向上につながるため、今後も魅力ある圏域づくりのための取組を進めていきます。

圏域全体の生活関連機能サービスの向上

人口減少社会では、地方公共団体の財政状況の不透明感も増すことが予想され、特に過疎化が進行する地域では、将来的に安定した行政サービスの提供が困難になる恐れもあります。また、高齢者の増加や共働き世帯の増加等、新たな生活関連機能サービスのニーズも高まっていくことが予想されます。

このような状況下で、子育て支援や公共施設マネジメントを圏域で連携して行っていくことで、生活関連機能サービスの維持・向上を図っていきます。

施策の体系図

3つの基本方針に基づき、以下の通り施策・事業展開を図っていき、毎年度その施策・事業のあり方を見直すことで、効果的な取組を推進します。



1 圏域全体の経済成長のけん引

KPI（重要業績評価指標）

指標	現状	目標値
従業者数	33.1万人（H26）	34.2万人（H33）
入込観光客数	1,410万人（H27）	1,550万人（H33）

●連携中枢都市圏に関する協議会（仮称）の開催

圏域内の経済団体、大学、金融機関及び地方公共団体が一体となった協議会を設置・運営し、圏域内の経済成長のけん引等に係る取組の検討を行うとともに、連携中枢都市圏ビジョンの進捗管理を行います。

●新規創業者等育成支援事業

ベンチャービジネスの展開や新規創業の促進、中小企業の情報化を促進するため、圏域内での創業を希望する者などを対象にセミナーなどを各市で開催し、新規創業者等に対する支援を行います。

●インキュベーション施設管理運営事業

鹿児島市が管理運営するソーホーかごしまの創業準備ブース及びレンタルブースを、圏域内に事業所を設置しようとする者も利用できるようにします。

●連携中枢都市圏合同企業説明会開催事業

圏域内の雇用の場の情報を一体的に求職者にアピールするため、圏域内の企業による合同企業説明会を開催します。

●企業立地推進事業

圏域市の企業誘致について、各市の関連施策等を共有し、ホームページ等での情報発信を行います。

また、企業誘致に向けた展示会への共同出展や、企業誘致に係る補助金の要件の見直しなどを検討します。

●新産業創出支援事業

圏域内での健康などの分野における新製品・サービスの創出を促進するため、「新産業創出研究会」の部会会員の募集について、各市ホームページでの情報発信を行うとともに、圏域内の部会会員を対象にしたセミナー等を開催します。

●フードビジネス推進事業

かごしまの豊かな農林水産資源や食品加工技術等を活用した新商品開発などを促進するため、圏域内の食品関連事業者を対象に事業者間マッチングに関するセミナー等を開催します。

●広域観光の推進

圏域内の観光資源を生かし、各市イベント等において連携して取り組むとともに、各市の広報紙などを活用した情報発信を行います。

●グリーン・ツーリズム推進事業

圏域内の豊かな農村地域の資源や特色あるグリーン・ツーリズムの取組と連携した体験交流ツアーを行います。

2 高次の都市機能の集積・強化

KPI（重要業績評価指標）

指標	現状	目標値
J R鹿児島中央駅の乗降客数	1, 4 6 3万人 (H27)	1, 4 8 0万人 (H33)
中心市街地の歩行者通行量	1 6. 1万人 (H27)	1 7. 1万人 (H33)

●医療体制の充実

圏域内の中核的医療機関である鹿児島市立病院の医療体制の充実を図り、安心安全な質の高い医療を提供します。

●広域的な都市基盤の整備

圏域の将来の発展を見据え、圏域全体の都市力や住民の利便性向上につながるよう、鹿児島駅周辺地区や谷山駅周辺地区の整備を進めるほか、中央町19・20番街区や千日町1・4番街区における市街地再開発を推進します。

3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上

KPI（重要業績評価指標）

指標	現状	目標値
人口社会動態	- 6 8 3人 (H27)	0人 (H33)
出生者数	6, 7 5 2人 (H27)	5年間で32, 9 0 0人

●子育て支援に関する情報発信の強化

鹿児島市子育て応援ポータルサイト（夢すくすくねっと）に、圏域内のにこにこ子育て応援隊の協賛店舗を掲載して情報発信し、圏域内の住民の利便性の向上を図ります。

●子育て支援施設の広域利用の検討

子育て支援施設の圏域内での広域利用について協議・検討を行います。

●病児・病後児保育施設の広域利用の検討

病児・病後児保育施設の圏域内での広域利用について協議・検討を行います。

●ファミリー・サポート制度の広域利用の検討

ファミリー・サポート制度の圏域内での広域利用について協議・検討を行います。

●図書館の広域利用

圏域内の住民が、圏域内の各市立図書館等で図書の貸出及び返却ができるようにします。

3 圏域全体の生活関連機能サービスの向上（つづき）

●環境学習講座広域活用事業

かごしま環境未来館で開催する環境学習講座を圏域内の市民が受講できるようにします。

●公共施設マネジメント研修会の開催

公共施設の更新や長寿命化などマネジメントに関する理解を深めるため、圏域の市職員を対象に、公共施設マネジメントについての研修会を実施します。

●市民活動応援講座の広域活用

協働によるまちづくりを推進するため、NPO等の組織運営の手法や、事業の企画方法などのノウハウを習得する講座を開催するなど、圏域内の市民活動団体の活動の促進を図ります。

●交通環境の整備

圏域内の市道等の整備推進及び国道・県道等の整備促進に連携して取り組みます。

●災害時における相互応援の実施

各市が締結している県内市町村間の災害時相互応援協定に基づき、災害発生時に物資の提供や職員の派遣などの応援を行います。

●かごしま移住支援・プロモーション事業

圏域外からの住民の移住を促進するため、圏域の関連施策等を共有し、圏域の移住促進に係るパンフレットを作成するなどの連携を図るとともに、鹿児島市東京事務所を活用した情報発信を行います。

●出会い・ふれあい企業対抗運動会開催事業

圏域内の企業を対象とした企業対抗運動会及び参加者交流会を開催し、圏域内の結婚を希望する人たちに対して、一企業の枠を越えた出会いの場を提供します。

●グリーン・ツーリズム推進事業（再掲）

圏域内の豊かな農村地域の資源や特色あるグリーン・ツーリズムの取組と連携した体験交流ツアーを行います。

●職員の人事交流

様々な行政課題の解決や職員の資質向上を目的とした圏域の市職員の人事交流について、協議・検討を行います。